NO ５５６　　令和６年１月１２日(金)

3学年だより

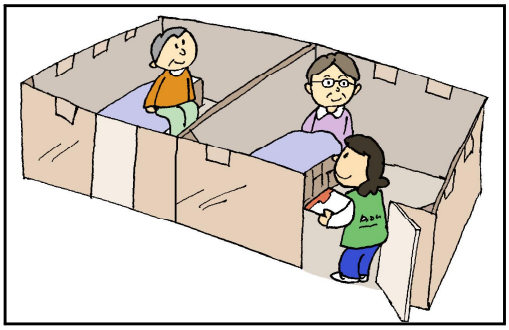
夢の宅配便

3年学年主任
水野　喜代治

「令和６年能登半島地震」

元旦に、能登半島を襲った巨大地震によって、多くの尊い命が奪われました。自然の強大なエネルギーの前に人間は常に無力です。元旦ということもあって、日本中の人が、自然の非情さに怒りにも似たものをおぼえたのではないのでしょうか？地震当初は、津波の警戒を繰り返しテレビは訴えていましたが、その災害地の状況はよくわからず、心配は募るばかりでした。翌日以降、この地震の被害の大きさが、破壊された家屋を見て実感でました。日を追うごとに犠牲者と行方不明者の数が増えて深刻になっていきました。１月１１日現在で、死者は２００人を越す人数となっています。

命が助かった人々も今は、避難所での厳しい生活に耐えています。阪神淡路大震災の時に、世界から救援に来たボランティアの方々が、日本の避難所の人たちの規律ある整然とした行動に驚いたという話を思い出します。とても外国では、水知らずの人と班になって共同生活などできないと話していました。日本はなぜ、このようにみんなが自然と協力して避難所生活を送ることができるのか？と感想を述べていました。また、当時は地震で無人化したお店や民家から物を盗むような人もいないのも驚かされるとコメントしていました。日本では、このように辛い状況に置かれた人の弱みに付け込んで物を盗んだりすることは人として最低な行為だと人の倫理観が根底に流れていると思います。コンビニがつぶれて、無人化したとしてもそこから、商品を許可なく持ち出したりする人はいないでしょう。



しかし、１９９５年に起きた阪神淡路大震災から、今回の地震では、約３０年の年数が経っています。ネットで、能登半島地震を調べていくと、無人化した建物からの窃盗などが報告されています。災害によって情報が錯綜している時の記事なのでどこまで本当かどうかわからないですが、このような書き込みが目につくこと自体が日本の社会に何か変化が起きているのかなと感じて寂しい気がします。

日本人がなぜ、規律正しく動けるかは、義務教育の９年間で徹底的に班活動などを行っているからです。好き嫌いでなく、無意図的なグループで給食当番を班で分担したり、清掃を班で分担したりして、メンバーに関係なく協力して仕事を行っていきます。このような取り組みが、震災などの避難所で生きてるのだと思います。

あの子と一緒の班になりたくないとか、班で行う清掃時に友達が清掃している脇で平気で話している生徒を見ると、避難所の生活が日本もだんだん大変になるのかなと心配になります。

みなさんはどう思いますか？